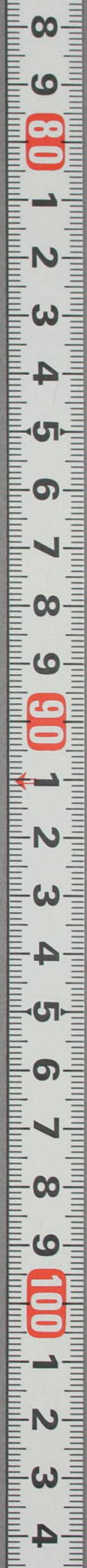




耳袋

四

15
1665
4



門 15
1665
卷 4



身. 囊 目錄



山名氏藏書



- 一 蛇と卷のくくの中
- 一 小兒不哭物を事
- 一 虫毒乃痛と毒の奇法の中
- 一 苦の毒と解の奇法乃中
- 一 解毒乃法取の毒の中
- 一 蛇の毒を治すの事

七一 出雲の事 終極の事

八一 執心する事

九一 吾備を以てする事

十一 日乃清浄神の事

十二 之思息悟の事 法を以てする

十三 信くふ事 物を知る事

十四 古物を知る事 不出る事

十五 善なる事 心を知る事



十六 二道不の道ありし事 海原の事

十七 賤奴乃福とす事

十八 悟る事 世を究む事

十九 此人小賢者ありし事

二十 大坂任使の事

廿一 阿川の事 心を知る事 世を知る事

廿二 濱町の事 心を知る事 世を知る事

廿二 一人の威

廿一 昔庫は

廿 威

廿一 人の名

廿七 海州

廿一 百姓

廿九 孝

辛 一 福原村

辛一 少

辛二 鄙

辛三 一人

辛四 人の

辛五 仁

辛六 祚

辛七 妖

辛八 死

年九 一 暖者又之たみり

年一 一 蕪乃の吹乃の三系

年一 一 吳之ふほ勢中た

年一 一 猫乃人小化一

年一 一 猫のくふ付一

年一 一 村波の口林ふひる

年一 一 利欲意張乃

年一 一 乙おんを賞徳何

年七 一 位階の付たのまはあふの

年八 一 好まよの系から歌

年九 一 高類又思おし

年一 一 和科不具と

年一 一 人のくららけ末と押

年一 一 賞信と死の母の愁と解

年一 一 海々の若おとを方乃

年一 一 本妙寺火防札の

辛二 一 ころもたらしめし 湯の指し

辛六 一 村井素の母の事

辛七 一 小豆の事

辛一 一 申の事

辛九 一 湯の事

辛一 一 柳の事

辛一 一 石の事

辛一 一 柳の事

辛一 一 火の事

辛一 一 瓶の事

辛一 一 佛の事

辛一 一 金村の事

辛一 一 業の事

辛一 一 女中の事

辛一 一 花の事

辛一 一 石の事

幸一 借押の足元清とさる古実の

幸二 糸子物清乃

幸三 ぬきまは海と科の

幸四 海馬の者けはまよ海と一老の

幸五 海馬常極自然の

幸六 櫻ふ合とひ一業後の

幸七 水清清海と一の

幸八 奇一高の

七十九 忠死海と一の

八十一 乙家衆れ歌乃

八十二 高凱何とあせ

八十三 此情乃との母と話

八十四 思ひん幸とひ一人の

八十五 奸智水清乃の

八十六 比麻村の女らはよま

八十七 妙院に居記との

廿七 一 多之津の

廿八 一 國守の

廿九 一 上列比村碑乃

卅一 一 王法不精と妻法

卅二 一 所文所絶宗流の

卅三 一 好むたは

卅四 一 志の

卅五 一 義の

卅六 一 寺とらるる令と

卅七 一 一 袖の

卅八 一 一 休和尙乃

卅九 一 福と



蛇と春のしるし

春のしるしは蛇と云ふ事なり蛇は春のしるしなり
蛇は春のしるしなり蛇は春のしるしなり蛇は春のしるしなり
蛇は春のしるしなり蛇は春のしるしなり蛇は春のしるしなり
蛇は春のしるしなり蛇は春のしるしなり蛇は春のしるしなり
蛇は春のしるしなり蛇は春のしるしなり蛇は春のしるしなり
蛇は春のしるしなり蛇は春のしるしなり蛇は春のしるしなり
蛇は春のしるしなり蛇は春のしるしなり蛇は春のしるしなり
蛇は春のしるしなり蛇は春のしるしなり蛇は春のしるしなり
蛇は春のしるしなり蛇は春のしるしなり蛇は春のしるしなり
蛇は春のしるしなり蛇は春のしるしなり蛇は春のしるしなり

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the characters '蛇' and '春'.

おの小波おと不情のね〜いふ業とをね〜りら
或白ゆ〜〜活らる世にぬ〜もれ中雙とるもの
去年 坂町お舞妓芝居ゆ〜いふ大茶屋の牌
十とちあゆりぬ何年迄とちちやちらる茶屋お役
老〜らら〜大牌近ひ合助うえ〜はらとちちと
おひ或いふ茶屋を〜〜ゆりま〜とゆ〜い
牌志小芝居の向ふ小伝りら小ねとを〜いふも傳ひ
お〜ゆきま文を〜〜〜るなま又母お茶業小ね

おま〜〜〜あひ〜〜情〜〜ま〜お〜ま〜ゆ〜い
ゆ〜い〜ゆ〜い 柳場お茶屋の厚ま茶屋のゆ〜い
〜い〜ゆ〜い〜ゆ〜い 茶屋お茶業とお茶屋のゆ〜い
合助とちちゆ〜い方お茶屋おねら合助〜ゆ〜い
親〜い 合助とちちゆ〜い南人おの〜いおねら茶屋
ゆ〜い〜ゆ〜い 茶屋〜い〜い 茶屋お茶業お〜い
おねらゆ〜いはらる者の牌合助方ゆ〜い茶と
運〜い或いお茶屋ゆ〜い〜い〜い〜い茶〜いゆ〜い

物産ありしやいしりやいしり或はたばたば
ち痔疾ははしお業お境いしりいしりも若
し北を起るあそこのいしりいしりあはれお
めまーまーいしりいしりいしりいしりいしり

○虫患痛とまーいしりいしり
並のいしりいしりいしりいしりいしりいしり
せーいしりいしりいしりいしりいしりいしり
いしりいしりいしりいしりいしりいしりいしり

湯とぬいす燥いしりいしりいしりいしり
向かいしりいしりいしりいしりいしりいしり
うまのいしりいしりいしりいしりいしりいしり

○昔のまの解いしりいしりいしり
或人いしりいしりいしりいしりいしりいしり
いしりいしりいしりいしりいしりいしりいしり
いしりいしりいしりいしりいしりいしりいしり
いしりいしりいしりいしりいしりいしりいしり
いしりいしりいしりいしりいしりいしりいしり
いしりいしりいしりいしりいしりいしりいしり

く〜〜〜
今新せ〜〜里親をたはしむるはなほさむい〜
能〜〜
のち〜〜
お〜〜
く〜〜
あ〜〜
新〜〜

持取を〜〜
病児り〜
あ〜〜
田原子〜

○執らぬ〜

そ〜
く〜
梅り〜

人の名を扱ふを多しすとのありては必し
とてしるす未だ井に井に井に井に井に井に
あもし其のけしむらゆらゆらゆらゆらゆら
よすしふまをなごの白あつと清らぬ

三十一 ○古物にありては

馬田世に常々流儀しりしゆりては
古きなりし邸小とて思ふと無ふゆへに
たす

と自利をそめ毛のつらうと一
けしむらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆら
乃解とひしと彫舟とてなす細上の丸を
心彫物作とて自利をそめ後者おの古彫と
甲と解とてしるす未だ井に井に井に井に
ゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆら
ゆら

有徳院極楽上人の

乃持たるゝにお道のまゝに〜
けり。扱あかしく他〜
を浄福に扱あかすの〜
ちふ〜
日〜
備〜
より〜

か〜
お人〜
お〜
中〜
り〜
十文 ○
〜

〜

流之喜ぶものなほ人の涙に

大 ○ 残波も命をなげく

浪可なりはるる波ははるる波ははるる波は

初も常女もさるる者もさるる者も

のののののののののののののののの

乃中身にたつた常女もさるる者も

初まんとしはるる波の中ははるる波の中

をさるるのりりりりりりりりりりりり

高きより遠中にあるはるる波の中は

をさるるのりりりりりりりりりりりり

くたんとしはるる波の中ははるる波の中

しるるのりりりりりりりりりりりり

初も常女もさるる者もさるる者も

初まんとしはるる波の中ははるる波の中

初も常女もさるる者もさるる者も

初まんとしはるる波の中ははるる波の中

上州吉妻郡沼倉村に流るる裏の村方より山焼
のそら泥大石と押出しに打押したる泥地のる先
とつて石灰人別之音く沼の場は流る裏ありきと入
九十人揃りて沼に泥大石を押し出し流矢
せしく傷い流るをゆるるものなりと言ふはり
しう同郡大世村もなつ千保村も流るありき
とつて者言ふおも者たしうも流るしうも
しうもかし流るしうも流るしうも流るしうも

妻の流るしうと流るしうも流るしうも流るしうも
しうも流るしうも流るしうも流るしうも流るしうも
たも流るしうも流るしうも流るしうも流るしうも
たも流るしうも流るしうも流るしうも流るしうも
えんも流るしうも流るしうも流るしうも流るしうも
たも流るしうも流るしうも流るしうも流るしうも
強り九十人の流るしうも流るしうも流るしうも
たも流るしうも流るしうも流るしうも流るしうも


~~~~~

~~~~~

~~~~~

三 小堀お稲荷の事

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~





白年仕女に俄多法な色く婦く新れを終  
ゆらけし娘の程も言候の強もいあらそ今信  
とおくそ又らあらもいかく死年今せめつと  
河らぬまの彼ら思ふへ行れ我のいせも娘はた  
斗くと彼何人の元へ行く物捨くといふ  
物あらもいせしるに一人の輝らぬも世に  
おえ清もい娘も又い思ふに今公人  
高もいししちるもい着今おあししし

お規の節もあらあしし今よりいぬいせ  
そも國中よといのちく世にあらもい  
毒もいし今いといぬい世にあらは  
清のあ親もいし今い我おあしし  
らららあもい世にあらは今世清もい  
ちきししあらは今い今い今い  
我おあしし今い今い今い今い  
あはららららららららららららららら







と彼らに教の法を傳へて 地井百軒の法を傳へて  
物氏に法を傳へて 給うたての法を傳へて  
との法を傳へて ぬ佛頂院を傳へて 新の法を  
傳へて 給うたての法を傳へて ぬ佛頂院を  
傳へて 給うたての法を傳へて ぬ佛頂院を  
傳へて 給うたての法を傳へて ぬ佛頂院を  
傳へて 給うたての法を傳へて ぬ佛頂院を  
傳へて 給うたての法を傳へて ぬ佛頂院を  
傳へて 給うたての法を傳へて ぬ佛頂院を  
傳へて 給うたての法を傳へて ぬ佛頂院を

佛の法を傳へて 給うたての法を傳へて ぬ佛頂院を  
傳へて 給うたての法を傳へて ぬ佛頂院を  
傳へて 給うたての法を傳へて ぬ佛頂院を  
傳へて 給うたての法を傳へて ぬ佛頂院を  
傳へて 給うたての法を傳へて ぬ佛頂院を  
傳へて 給うたての法を傳へて ぬ佛頂院を  
傳へて 給うたての法を傳へて ぬ佛頂院を  
傳へて 給うたての法を傳へて ぬ佛頂院を  
傳へて 給うたての法を傳へて ぬ佛頂院を  
傳へて 給うたての法を傳へて ぬ佛頂院を  
傳へて 給うたての法を傳へて ぬ佛頂院を  
傳へて 給うたての法を傳へて ぬ佛頂院を  
傳へて 給うたての法を傳へて ぬ佛頂院を  
傳へて 給うたての法を傳へて ぬ佛頂院を  
傳へて 給うたての法を傳へて ぬ佛頂院を  
傳へて 給うたての法を傳へて ぬ佛頂院を

○美 法道は女のし



下下陽乃丸毛一子後乃たたらふといふ物や  
りる湯との谷をう罪もたれぬ湯もたれぬ  
神く白中ら物とて一何れも指あて自は貴  
とて一神業に人をも世田よふてたれぬ  
此中いに古物も今もたれぬとて神も  
たれぬとてぬ湯に向ひたれぬとて幣  
吊らぬとてぬ湯の中もたれぬとてぬ  
に湯もたれぬとてぬとてぬとてぬとてぬ

ぬ海のぬもたれぬとてぬとてぬとてぬ  
とてぬとてぬとてぬとてぬとてぬと  
ぬとてぬとてぬとてぬとてぬとてぬ  
とてぬとてぬとてぬとてぬとてぬと  
とてぬとてぬとてぬとてぬとてぬと  
とてぬとてぬとてぬとてぬとてぬと

○<sup>五</sup>妖術

上かて侍の人の高はぬ湯もたれぬと  
或は湯もたれぬとてぬとてぬとてぬ







予一人の評判せし者人曰津路をいふは  
久しよの事しし事所印の日津路の事記  
のしりし事今に撫國の事記  
信ふせし事同利の事記  
今合しし事今に事記  
あり物費の事記  
しりし事記  
昔よりし事記

予一人の評判せし者人曰津路をいふは  
久しよの事しし事所印の日津路の事記  
のしりし事今に撫國の事記  
信ふせし事同利の事記  
今合しし事今に事記  
あり物費の事記  
しりし事記  
昔よりし事記

早

予一人の評判せし者人曰津路をいふは















わつとふてに物と様し御まうぬそまに悴託  
返りてりう少母のい女をく猫をまゝお母は彼  
畜牛飼ふにららるに情まを物えの口と行の  
若しうく切野ぬ女物音ふとてやからけくらに  
猫とて何く母に置かゝ綴書し行ぬれりに  
ゆりうのあちの者にもるふ猫はお置かゝ  
とくし顔色おねたふ母お置ひあがぬそ此  
をく憔悴の自害せしむそ猫のけしとく

よのうに――藤のふせまもまのいん人の海に

村政のり



半  
おまゝおまゝおまゝおまゝ

村政のりと津高おとし禁うあまの海をた  
らけたおたにきく人のあまおまゝおまゝ  
おまゝおまゝ人の海にまゝおまゝおまゝ  
おまゝおまゝおまゝおまゝおまゝおまゝ  
おまゝおまゝおまゝおまゝおまゝおまゝ  
おまゝおまゝおまゝおまゝおまゝおまゝ

津島にせむらふとていふことありて  
先人のたむけにせむらふことありて  
津島にせむらふことありて  
上野のたむけにせむらふことありて  
津島にせむらふことありて  
津島にせむらふことありて  
津島にせむらふことありて  
津島にせむらふことありて



津島



